

木質バイオマスストーブの開発
(中間評価)

質問

回答

C委員	この計画がどうして温暖化対策につながるのですか？	木を燃やしてもCO2はでるのですが、伐採しても、植林することにより、木が成長される過程で結局吸収されます。その流れが継続されればCO2は一定量に押さえられるのです。
	樹脂ペレットの有効活用法として、なぜストーブを選んだのですか？	県内にペレット製造工場があり、輸送費が安いことが挙げられます。また、燃料の形態が安定しており、カサが小さいので大量に輸送できる点が向いているためです。
	例えば、建設材などに利用すれば、より環境に配慮した形になると思うのですがどうですか？	ボード、断熱材などに樹皮が使えるのですが、それだけでは利用しきれず、余った状態にあり現状で処理に苦慮しています。そのため燃やして利用するのが一番良いのです。
F委員	特許を出願する際に侵害のおそれなどはないのでしょうか、そういったところの調査はどうなっていますか？	すでに調査済みです。特許は期限切れであり問題はありません。
B委員	一日当たりのペレット使用量と、灰処理の手間はどのくらいでしょうか？	一週間で40kg程です。灰は一週間で一回程清掃すれば問題ありません。
E委員	今後、家庭用製品開発は考えているのですか？	ファンヒーターと同様に、今後、廉価版を出す予定はありません。
	一般の暖房器具より、手がかかるのではないのでしょうか？	灰の処理はかかりますが、設置等に関しては問題ありません。
D委員	耐久性の問題はどうでしょうか？	熱設計等で考慮はしていますが、耐久年数は具体的には不明です。
A委員	ペレットと石油のコスト比較はどうでしょうか？	輸送費を別にすれば石油とほぼ同じです。
D委員	建築廃材は燃料として使えないのですか？	VOCなどが含まれるので問題があります。